

男も料理の時代2009 ～1997年からの変化～

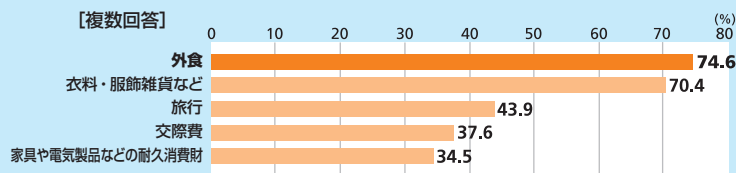
調査背景

経済状況の変化により、「巣ごもり消費」「節約」という言葉をよく耳にするようになりました。特に食についてはその傾向が顕著であり、「1年前と比べて出費を減らしている項目」の1位が「外食」であり（図1）、なおかつ「金をかけたい分野」の2位に「家庭での食事」が入るなど（図2）、内食回帰の傾向にあるといえます。自炊の増加に関しては男性についても話題になり、自分で作った弁当を職場などに持参する「弁当男子」という言葉も聞かれるようになりました。

一方、生活科学研究室では1997年に既婚男性の料理に関する調査を実施しました。この中で一般的な家庭料理は大方の男性が作れるものの、当時の男性の料理は趣味の域を出ていないため、“男も料理の時代”への始まりであると位置づけています。

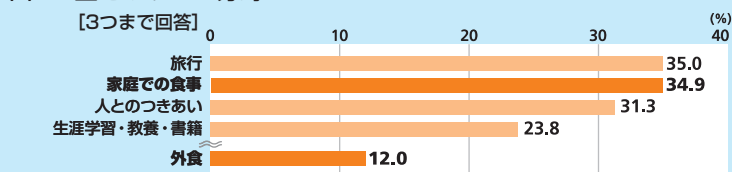
この10年あまり、経済環境・家庭環境・消費動向等に様々な変化があり、男性が趣味的に行うのとはまた異なった意識で料理をするようになっていくことが予測されます。そこで2009年に、男性を対象として料理に関する調査を再度行い、この12年での料理に関する行動や意識の変化を調べてみました。

図1 1年前と比べて出費を減らしている項目



日経消費ウォッチャー 2009.2
 調査対象：首都圏に住む20～69歳の男女282人

図2 金をかけたい分野



日経MJ 2009.9.16より作成
 調査対象：首都圏と近畿圏の20～69歳の男女820人



目次

調査背景	1
旦那さんたちはどのくらい家事・料理を行っているの？	2
なんで料理を作るの？	3
料理の腕前はどのくらい？	4
何を意識して料理を作っている？	6
健康・生活全般に関する意識	7
弁当男子の実態	8
考察	8